



目次

卷頭言《武田管理委員長》…………… 1
第9次共同研究について…………… 2
所員研修会・研究所連盟研究発表大会… 3

ミニ研修講座の紹介…………… 4
初任段階研修の取組について… 5
所内ゼミナールについて… 6

管内小中学校研究主題一覧… 7
表紙写真解説(羽幌中学校)… 8
新刊図書案内・編集後記… 8

卷頭言

「対面指導と 学び合い」

管理委員長 武田浩一
(留萌市教育委員会教育長)



年明け早々から猛威を振るっている新型コロナウイルスは、多くの社会活動に大きな影響を及ぼして、未だに収束の目処が立っていません。ただ、幸いなことに、留萌管内では感染の広がりが抑えられ、かつての日常が戻りつつあります。このウイルスの影響で、新年度早々にひと月半の休校がありその学習の遅れが心配されましたが、夏季休業の短縮や行事の見直しなどによって、ほぼ、例年通りの学習進度が確保されているとのことで、現場の校長先生はじめ諸先生方のご尽力に深く敬意を表したいと思います。

さて、今回の新型コロナウイルスによって社会活動に甚大な影響が出たことは間違いないありませんが、感染症対策にともなって、今までの行動や習慣に対して見直しを意識するようになり、誤解を恐れずに言えば、ある意味貴重な経験となりました。

会社や事業所では、テレワークやオンライン会議のように、ICT(情報通信技術)を活用した仕事

の仕方が試され、多くの実践を通して新たな仕事のスタイルが確立されつつあるように思います。学校現場においても、文科省が昨年12月に発表した「GIGAスクール構想」の実現に動き出したことと、この度のコロナ禍への対応と相まって教育現場へICTの導入が一気に進み、従来の学習スタイルが見直されていくものと考えます。

また、今年8月に開催された、中央教育審議会の初等中等教育の在り方特別部会「『令和の日本型学校教育』の構築をめざして」の中でも、新時代の学びのあり方やそれを支える環境整備について「GIGAスクール構想」の実現を前提にICTの活用を核として進められることが述べられていました。重たい勉強道具の入った大きな鞄を背負って登下校する児童生徒の姿は過去のものと言われる時代が来るこことを実感しつつあります。

ただ、その中でICTはツールであり活用自体が目的ではないことも強調されていました。授業の基本とされ、多くの実践が積み上げられてきた、教師による「対面指導」や子ども同士による「学び合い」の大切さは変わるものではなく、むしろSociety5.0時代にこそ、その重要性が増すとされていました。

これから教師には、ICTの活用を図りながらも協働的な学びを実現し、多様な他者と課題を見出し解決に挑む資質・能力を育成することが求められます。今後とも、本研究所の研究成果がそのような教師の一助となることを期待いたします。

第9次共同研究（3か年継続研究：3年次）について

研究主題 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた実践的研究
～思考ツールを活用した授業改善～

目指す児童生徒像	各教科等において、生きて働く「知識・技能」を習得し、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」を高め、身に付けた知識や技能を活用・発揮しようとする子	
研究の仮説	子どもが、課題を解決するプロセスを通じて、考えを可視化・操作化できる思考ツールを活用し、「自己の学習を見通し、振り返る『主体的な学び』」と、「思考を広げ、確かな学びに向かう『対話的な学び』」を重視した授業展開を工夫することで、児童生徒の『深い学び』につながる学びの過程が実現できるだろう。	
研究内容（視点）	<p>視点1 自己の学習を見通し、振り返る 「主体的な学び」</p> <p>(1) 興味や関心を高める ※継続重点 (2) 見通しをもつ ※継続重点 (3) 自分と結び付ける ※R2重点 (4) 粘り強く取り組む ※R2重点 (5) 振り返って次へつなげる ※継続重点</p>	<p>視点2 思考を広げ、確かな学びに向かう 「対話的な学び」</p> <p>(1) 互いの考えを比較する ※継続重点 (2) 多様な情報を収集する (3) 思考を表現に置き換える ※継続重点 (4) 多様な手段で説明する ※R2重点 (5) 共に創り上げる ※R2重点 (6) 協働して課題解決する ※R2重点</p>

今年度の重点の詳細について

視点1



(3) 自分と結び付ける

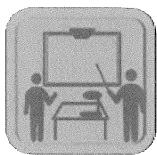
児童生徒に学ぶことへの興味や関心をもたせた上で、児童生徒が自分ごととして考えることができるよう学習課題を設定したり、学習を終えた時点での実生活との関わり（ゴールイメージ）を想像できるよう指導計画を作成したりする。さらに、単元や一単位時間の終末などに、学習内容と自分のこれから学びや生活、社会との関わりについて考えさせる場を取り立てて設定するなどの工夫をする。



(4) 粘り強く取り組む

自己の学習状況を把握し、学習の進め方についての見通しをもったり、学習の過程でよりよい解決方法を考えたりするなど、試行錯誤しながら粘り強く自己の学習を調整できるよう指導計画を作成する。課題解決への方向付けを確認する時間を確保したり、学習の成果や過程について自己評価したり認め合ったりするなど、自己の学習を調整する場や時間を意図的に設定するなどの工夫をする。

視点2



(4) 多様な手段で説明する

様々なプレゼンの方法について考えることが必要であるが、本研究では思考ツールをどう活用し分かりやすく伝えたり説明したりするかを意識した授業づくりに重点を置いている。説明箇所を指示示す、加筆したり線を引いたりしながら説明するなど、自分の思いを正確に伝えるための手段の1つとしての思考ツールの活用方法について検討している。



(5) 共に創り上げる

集団解決の場面に重点を置いて設定した。ゴールイメージを共有した上で、互いの考え方の相違点や共通点を確かめながら思考ツールに可視化し、互いの考えを理解した上で最適解・納得解を見つけていくといった協働的な学びの場を設定する。



(6) 協働して課題解決する

個の学びの変容や深まりに重点を置いて設定した。交流場面で、他者の意見や対話を通して生まれた新たな気づきや考え、感じたことや思ったことなどをそれぞれの思考ツールに加筆するようにする。加筆する際はペンの色を変えるようにすることで、考えの変容や深まりが自覚でき、また、授業者も見取ることができる。

今年度は、これまでのように検証授業を公開することが難しい状況にあります。3年次研究の3年目、まとめの年となりますので、研究の成果と課題を明らかにし、所報、研究紀要を通して管内の先生方に還元していきます。

北海道教育研究所連盟 所員研修会

7月31日に全道各地にある教育研究所・研修センターの所員・研究員の資質や能力の向上や、各教育研究所・研修センターの連携を深めることを目的として、例年、集合研修の形をとっていた夏季所員研修会ですが、今年度は名称を「所員研修会」とし、オンデマンド配信及びZoomによる情報交換会の形をとることになりました。留萌管内教育研究所からは高橋研究員、荒木研究員、 笹原研究員が参加しました。簡単に内容を紹介します。

1. 「Web会議システムZoomの基本的な操作について」

大きく分けると「参加者側としての操作方法」と「ホスト側としての操作方法等」の2つの内容になっています。Zoomの画面を提示し、具体的な使い方について説明しています。

参加者側としての操作は知っていても、ホスト側としての操作は知らないことが多いのではないでしょうか。この動画はホスト側としての操作はもちろん、オンライン研修を行う際に留意することなど、実践的な内容が多く、とても分かりやすいものでした。

令和2年度（2020年度）
北海道教育研究所連盟 所員研修会 動画①

Web会議システムZoomの 基本的な操作について

ねらい

Web会議システムZoomの基本的な操作の仕方に
ついて理解を深める。

2. 「Web会議システムの活用事例及び事例の成果と課題について」

学校における活用等について説明しています。移動リスクを避けた遠隔でのゲストティーチャー活用として、留萌市立潮静小学校の事例が紹介されています。実践例だけではなく、どうすればWeb会議システムを活用できるかという観点で、取組例も紹介されており、Web会議システムの大きな可能性を感じることができます。

2つの研修動画はオンデマンド配信です。したがって、自分の都合がよいときに、必要なところだけ視聴することができます。今年度の所員研修会は集合研修ではなく、残念な思いもありましたが、オンデマンド配信による研修のメリットを実感することができました。

なお、この研修動画は、12月末まで北海道教育研究所連盟のホームページから視聴することができます。ご活用ください。

第75回北海道教育研究所連盟研究発表大会上川大会 兼 第62回全国教育研究所連盟北海道地区研究発表大会

記念
講演

「教育研究所・センター所員の資質・能力向上に向けて ～学びに向かう力等を育成するための指導と評価の在り方について～」

国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部 統括研究官 二井 正浩 氏

二井先生の講演では、①評価をなぜ問題にするのか、②「学びに向かう力、人間性等」をどう評価するのか、③「主体的に学習に取り組む態度」をどう育てるのか、④コロナ禍における学習評価について、⑤教育研究所・センター所員としてどのような研修を実施するのか、という5つの柱に沿って、お話をいただきました。

講演の中で印象的であったのは、「子どもは評価されるものを身に付けようとする」という言葉です。子どもだけでなく大人であっても、適切に評価されないものを身に付けようとはしないもの、というお話は、日々の仕事を省みるきっかけとなりました。

「学びに向かう力、人間性等」をどう評価するのかについては、個人内評価を充実させることが特に重要であることを確認できました。また、「主体的に学習に取り組む態度」をどう育てるのかについては、「主体的」という言葉の定義（自分の意志、判断によって行動するさまを指す）を教師が的確におさえ、生徒指導的なものとは別の、学習指導としての取組が求められていることを参加者全体で共有することができました。

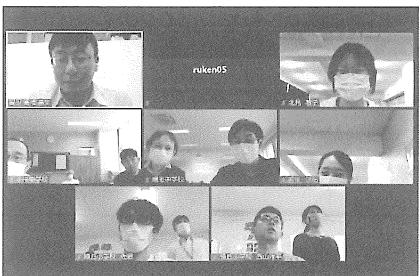
講演の中では、コロナ禍における各研究所やセンターの現状を交流する場面もありました。その中で「Zoom」活用の必要性やこれまで行ってきた研修講座の見直しや効率化を考慮した上での実施など、今できる最善の方策について意見を交流し、今後の研究所・センターの在り方について考えを深めることができました。

ミニ研修講座の紹介

今年度は、新型コロナウイルスの影響で、ミニ道研や予定していた研修講座ができませんでした。ただ、このような状況でも、「少しでも管内の先生方の役に立てないか」と考え、Zoomを活用した講座を行いました。その内容を紹介いたします。

1 Zoom利用体験講座

6月23日(火)、25日(木)に「ウェブ会議システムZoomの利用体験」研修講座を開催しました。本研修講座は、研究所の高橋基文研修部長がホストとなり、管内の学校をZoomで繋ぎ、基本的な使い方等について実際に操作を行なながら学びました。



今年度は研究所の諸会議もZoomを多く活用しています。



利用体験では、画面表示の切り替えや表示名の変更、反応をスタップで伝える方法、チャットの使い方などを学びました。話し手以外をミュートにすると音声がスムーズになることを実践したり、画面共有を体験したりすることができました。

今回のZoomでの研修は、移動時間がなく、さらに放課後の時間に実施したこともあり、遠方の先生方にも参加していただきました。冬期の天候や道路事情による影響を受けないというメリットもあり、今後も活用したい、もっと詳しい機能も学びたいというご意見をいただきました。

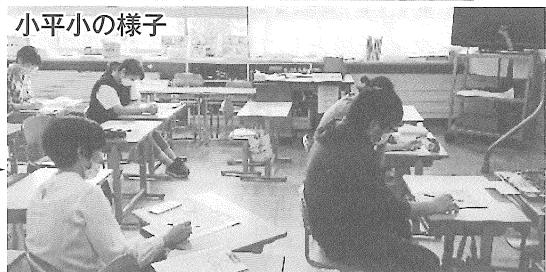
2 学習指導要領改定を踏まえた学習評価の在り方

6月30日(火)に「学習指導要領改訂を踏まえた学習評価」研修講座を開催しました。本研修講座は、留萌教育局義務教育指導班の藤本博主査、横地康恵主任指導主事、田中貴博指導主事を講師にお招きし、Zoomを通して理解を深めました。

学習評価は、瞬間的、偶然的な場面や一単位時間だけをもって評価を行うのではなく、単元のまとまりの中で、評価する観点を計画的に位置付け見取ることが大切となるとお話をありました。また、粘り強く取り組む側面は、子どもたちの伸びしろにも着目することが大切であるとのことでした。

教師がねらいを明確にして育てていなければ、子どもを評価することは困難です。評価には、授業者自身へのフィードバックという視点もあるため、授業改善に生かしていくことも大切と教えていただきました。

今回もZoomを活用した研修となり、管内全域の10校から50名を超える先生方に参加していただきました。たくさんのご参加、どうもありがとうございました。



1学期の評価前の時期に開催したこともあり、先生方から「ポイントを理解できた」との声をいただきました。どの学校でも「主体的に学習に取り組む態度」の評価について関心が高く、質問が多くありました。この講座を通して、管内の先生方で評価との一体化を意識した指導について一定の方向性を共有することができました。資料等は、HPに掲載していますのでご確認ください。

Interview

教育と私

初任段階研修の取組について

留萌市立東光小学校 寺澤 寛先生

初任段階教員として必要な資質・能力の育成・向上を図るため、また、仕事を始めたばかりの先生方を様々な面からサポートするための初任段階研修講師。その取組を広く知っていただくことは、留萌管内それぞれの学校で初任段階の先生方を指導されている先生方の助けにもなるのではと考えました。そこで、この初任段階研修講師を留萌市で3年間担当されている東光小学校の寺澤先生に詳しくお話をうかがいました。

① 指導する際に工夫されていることがあれば教えてください。

寺澤 初任者の先生方にもそれぞれの個性があるので、個に応じた指導が必要だと考えています。「厳しく指導をする」、「励ます」、「話を聞く」をバランスよく行いながら指導をさせていただいているところです。また、市内の学校では学年団を組めるところもあるので、一緒に学年を運営している先生ともコミュニケーションを図りながら、その先生方のよさを知り、伸ばせるよう、心がけています。

**② 指導で戸惑ったことや難しさはありますか。**

寺澤 最近の初任者の先生は、大学でしっかりと学んでできている方が多く、正直「何を教えたらいよいのかな？」とこちらが戸惑ってしまうくらい優秀な先生もいます。そういう先生方に指導するのは正直難しいともいえるし、未来ある先生方の少しでもプラスにならなければという、大きなプレッシャーを感じています。



個別で指導にあたる寺澤先生

③ 初任者の先生方への思いと仕事のやりがいを教えてください。

寺澤 先生方には子どものことを愛し、楽しんで仕事ができるようになってほしいと強く思っています。ただ、真面目な先生方がとても多く、任された仕事に責任をもって働くことに意識が傾きすぎてしまい、心配になることがあります。自分の体が壊れたら、元も子もありませんので、本当に忙しい現場ではありますが、子どもと楽しい毎日を過ごすために、自分の体と自分の時間を大切にしてほしいと思っています。

※一部ではありますが、寺澤先生の普段の取組です。ご参考になれば幸いです。

(1) 初任者段階教員に向けた通信「一期一会」の作成

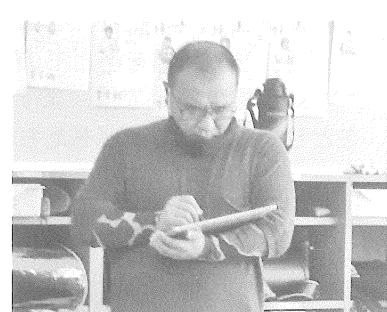
内容は、教員としての心構え、服務などの基本的なことから、日常で気になったことなど多岐に渡ります。先生方とのコミュニケーションのツールとしても活用しています。

(2) 日常の振り返り

講師として教室に入った際には、授業の内容を簡単に記録し、先生方に渡します。授業の内容の振り返りはもちろん、子どもとの接し方で気になったことなどを伝えるようにしています。

(3) タブレット端末の活用

常にタブレット端末を携帯し、先生方の板書や子どもたちのノートを画像として記録し、事後の指導に活用します。また、指導略案をデータ化して端末に保存、授業中に気になったことなどを書き加えたものをプリントアウトして本人に渡しています。



初任者の先生方への思いをたくさん語ってくれた寺澤先生。インタビューの最後には、自分自身の経験を美化しすぎず、常に謙虚な姿勢を心がけて仕事をしていきたいと語ってくれました。

研究所内ゼミナール

研究所員の教育に関する知識や技能、情報等を所内で紹介し合い、それぞれの学校現場や今後の教職に生かしていこうとする実践会の報告第1弾です。3名の研究員が担当した内容を紹介します。

「新潟大学附属新潟小学校の思考ツールについて」

中村研究員の発表より

本研究所の研究にも関わる思考ツールの先進校である新潟大学附属新潟小学校の実践が紹介されました。昨年度、研究所から3名の研究員が附属新潟小の研究会に参加しており、その内容を新任所員にも還元するのがねらいです。

附属新潟小では、思考ツールで思考の方法を促すことによって、自分の考えをもつことができると考え、
ベン図(比較する)、ステップチャート(順序付ける)、イメージマップ(関連付ける)、フィッシュボーン
(多角的に見る)、クラゲチャート(理由付ける)、ピラミッドチャート(構造化する)、X・Y・Wチャート
(分類する)の7つの思考ツールに絞って活用しています。研究所では、課題に応じて自分で思考ツール
を選択することや、複数の思考スキルを組み合わせた課題解決をすることで、思考力の育成を目指してい
るため、使用する思考ツールを絞ってはいません。しかし、思考ツールの種類を厳選することで、子ども
がそれを選ぶ時間を省くことができ、本時のねらいの達成や課題の解決にすぐに向かうことができるの
ではないかと提案がありました。

「思考ツールを活用した授業改善について～新任所員が日常の授業でつかうために～」

渡辺研究員の発表より

渡辺研究員の所属校である緑丘小学校では、今年度より2か年計画で思考ツールを活用した研究を行っています。そこで、校内における思考ツールを用いた実践を紹介してくれました。

緑丘小では、学習指導要領解説「総合的な学習の時間」編に示されている、「考えるための技法」をもとに、思考ツールを10個に絞って研究を進めています。思考ツールの活用を促すため、使い方を示した紙を作成したり、用紙を印刷して準備したりするなど、子どもにとって身近な存在となるように工夫したそうです。そのような努力もあり、2年生の子どもたちでも数回使用するだけで使いこなすことができたり、「仲間分けをしたいならXチャートだ」と反応が返ってくる学年もあったりするなど、徐々に思考ツールのよさが浸透してきている手応えを感じているとのことでした。今後も、獲得させたい知識・技能（授業のゴール）を明確にし、そのためにはどのような思考スキルを活用・発揮させるかを意識して授業づくりをする必要があると強調していました。



「飾りで終わらない学級目標」

荒木研究員の発表より

冒頭、「学級目標が飾りとなっているクラスはありませんか？」と我々に問い合わせた荒木研究員。学級目標を飾りにしない、させないためには、「学級目標の設定の仕方」と「学級目標を子どもの成長に生かすこと」が重要であるということでした。

学級目標の設定では、まず、「どんな学級になったらよいか」というアンケートをとり、集約して子どもたちに配付。そこから言葉を絞り、学級目標に使用したいキーワードを挙げさせます。その後、子どもたちの意見を踏まえて教員側から5つ程度の「案」を示し、そこから選ぶ形が効果的とのことでした。学級目標のデザインは、イベント化して募集することもあるようです。また、学級目標を子どもの成長に生かすには「学級目標の具体化・数値化」が効果的とのことでした。学級目標を達成するために必要な力を設定し、節目ごとに子どもたちにアンケートをとり、数値化してグラフとして提示します。学級の課題が見えてきたときは学級会を開き、改善策について話し合うことが有効とのことでした。

学年履歴をつづろう！①	名前
<p>私は「(学年)、(学年)に(学年)まで(学年)を(学年)」という学年の名前であります。 私は(学年)、(学年)に(学年)まで(学年)を(学年)であります。 私が(学年)、(学年)に(学年)まで(学年)を(学年)であります。 私が(学年)、(学年)に(学年)まで(学年)を(学年)であります。 私が(学年)、(学年)に(学年)まで(学年)を(学年)であります。</p>	
<p>1. どうなさいに迷ったら何をですか？</p>	
<p>2. どうなさいになってしまった時はですか？</p>	
<p>3. 何がどれを聞いたからいいようにして、プリントにまとめてください。</p>	

◎令和2年度 留萌管内小中学校研究主題一覧 ◎

市町村	学校名	研究 主 題 ～副 主 題～	研究 領 域	研 究 期 間
増毛町	増毛小	もっと学びたい！伝えたい！深めたい！みんなで考え高め合う ましけっ子 ～数学的な見方・考え方を活用した数学的活動の充実を目指して～	教科【算数】	R 2～3の2か年 計画 1年次目
	増毛中	正しく読み取り 思いを伝え 深めあえる生徒の育成 ～読解力、追求・活用する力の向上を目指して～	教科【全教科】	R 1～2の2か年 計画 2年次目
留萌市	留萌小	「学びは楽しい！」を積み上げ、自信をはぐくむ子どもの育成 ～「読むこと」の指導を通じた国語の力を高める授業改善～	教科【国語】	R 1～3の3か年 計画 2年次目
	東光小	ワクワク・ドキドキ・フムフムする授業づくり ～国語の授業における対話的な学びを通して～	教科【国語】	R 2～3の2か年 計画 1年次目
	港北小	自分の思いをもち、表現する子どもを育てる ～小規模校の強みを生かし、アウトプットを重視した授業改善～	教科 【全教科・領域】	R 2 単年度計画
	潮静小	論理的に考え、豊かに表現する子どもの育成 ～言語能力の育成を通して～	教科【国語】	H30～R2の3か年 計画 3年次目
	緑丘小	思考スキルを活用・発揮し、思いを表現できる児童の育成 ～「主体的・対話的で深い学び」に視点をおいた授業改善～	教科 【全教科・領域】	R 2～3の2か年 計画 1年次目
	留萌中	「自己の生き方につながる道徳教育の推進」 ～指導方法の工夫と評価の充実～	教科【道徳】	R 1～2の2か年 計画 2年次目
	港南中	考えを広げ、深め、表現する生徒の育成 ～教科指導における話し合い活動の工夫を通して～	教科 【全教科・領域】	H30～R2の3か年 計画 3年次目
小平町	小平小	子どもがわくわくする算数の授業づくり ～自分の「できた」をメタ認知～	教科【算数】	R 2～4の3か年 計画 1年次目
	鬼鹿小	主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり ～全ての教科における学習スタイルの確立をとおして～	教科【全教科】	R 1～2の2か年 計画 2年次目
	小平中	思いや考えを伝え学び合う生徒の育成 ～主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり～	教科【全教科・道徳・特別活動】	H30～R2の3か年 計画 3年次目
苦前町	苦前小	思いや考えを伝え、学び合う子どもの育成 ～主体的・対話的で深い学びの実現を目指す算数科指導を通して～	教科【算数】	R 1～2の2か年 計画 2年次目
	古丹別小	コミュニケーション能力を高める授業の中で育む数学的思考 ～“学びの土台”と“学びの実践”的運動～	教科【算数】	R 2～3の2か年 計画 1年次目
	苦前中	「自ら考え行動し、学びを深める生徒の育成」 深い学びを実現するための単元計画策定と学習環境の整理	教科【全教科】	R 2～4の3か年 計画 1年次目
	古丹別中	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ～学び合い、主体的に探求する生徒を育成する課題設定と活動の工夫～	教科 【全教科・領域】	H30～R2の3か年 計画 3年次目
羽幌町	羽幌小	主体的・協働的に学び、表現できる子供の育成 ～国語・算数の授業改善を通して～	教科 【国語・算数】	R 2 単年度計画
	焼尻小	自らはたらきかけ、生き生きと活動する児童の育成 ～子どもが「楽しかった」と言える道徳授業を目指して～	教科【道徳】	H30～R2の3か年 計画 3年次目
	天売小中	しっかり聴き取りよりよく考える子どもの育成 ～極小規模校における「対話的な学び」の追究～	教科 【全教科・領域】	R 2 単年度計画
	羽幌中	確かな学力を身に付ける生徒の育成 ～主体的・対話的で深い学びのある授業実践を通して～	教科【全教科】	R 1～3の3か年 計画 2年次目
初山別村	初山別小	自分の思いをもち よさを認め合い すすんで関わり合う子どもの育成 ～学習集団の中で、互いのよさを認め合い、すすんで関わり合う道徳の授業【3年次】～	教科【道徳】	H30～R2の3か年 計画 3年次目
	初山別中	主体的に学び、仲間とともによりよく生きる生徒の育成 ～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて～	教科【全教科】	R 2～3の2か年 計画 1年次目
遠別町	遠別小	筋道を立てて考え、表現することのできる子どもの育成 ～算数科における、学習展開や伝え合う活動の工夫を通じて～	教科【算数】	H30～R2の3か年 計画 3年次目
	遠別中	根拠をもとに自分で考え、判断し、行動出来る生徒の育成を目指した教育活動の充実 ～主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善を通じて～	教科【全教科】	R 1～3の3か年 計画 2年次目
天塩町	天塩小	自ら考え、自ら表現し、学び合うことのできる子どもの育成 ～“みんなが学ぶ”“みんなで学ぶ”授業を通して～	教科【算数】	R 1～3の3か年 計画 2年次目
	啓徳小	自分のよさを認め、励まし高め合う子どもの育成 ～特別の教科 道徳を通して～	教科【道徳】	H30～R2の3か年 計画 3年次目
	天塩中	「自立」と「自律」、「共生」を育む道徳教育の充実 ～特別の教科 道徳における「対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して～	教科【道徳】	H30～R2の3か年 計画 3年次目

表紙写真解説 「学年対抗SD(ソーシャルディスタンス)ジャンプ」 羽幌町立羽幌中学校

今年度は重点目標である「主体的に考え、行動できる生徒」の育成を目指し、新しい生活様式の中でも、より充実した学びとなるよう工夫した取組を進めています。

そのような中、9月5日に開催した体育大会は、感染防止対策として、「競技以外でのマスクの着用」、「生徒同士の十分な間隔確保」、「種目の見直し」、「観客数の制限」、「時間短縮」などの対策を行い実施しました。特に種目の見直しでは、例年伝統種目として実施していた長縄跳びに代わり、集団で跳ぶのではなく、

一人ずつ縄を飛び抜けた人数を競い合う、『学年対抗SDジャンプ (SD: ソーシャルディスタンスの略)』に見直すなど、より感染防止対策に努めた体育大会となりました。

～生徒の感想～

体育大会、最高に楽しかったです。大会テーマである「change the history」のもと、コロナに負けずに、自分たちの手で新しい体育大会を創れたことがうれしいです。

令和2年度 新刊図書案内

- 「立体型板書」の国語授業 10のバリエーション（東洋館出版社）
- あそびの中の学びが未来を開く 幼児教育から小学校教育への接続（世界文化社）
- 思考ツールでつくる 考える道徳（小学館）
- 新時代を生きる力を育む 知的・発達障害のある子のプログラミング教育実践（ジアーズ教育新社）
- 国語科書写の理論と実践（萱原書房）
- 「しあわせ」でつくる算数の深い学び（明治図書）
- 話せない子もどんどん発表する！ 対話力トレーニング（学陽書房）
- 「繰り返し」で子どもを育てる 国語科基礎力トレーニング（東洋館出版社）
- 楽しみながら力を付ける！ 国語授業のICT簡単面白活用術50（明治図書）
- 使える英語がどんどん身につく！ 中学英語4技能ペア&グループワーク（学陽書房）
- 「一瞬」で読みが深まる「もしも発問」の国語授業（東洋館出版社）
- 思考ツールで国語の「深い学び」（東洋館出版社）
- 中学校数学科の授業改善（明治図書）



(研究所の蔵書及び教育研究資料の活用法)

お探しの本や研究資料がありましたら、研究所までお問い合わせください。

貸出期間は、1ヶ月以内です。
研究所の業務に必要が生じた場合は、貸出期間に関わらず、返却していただく場合があります。

利用時間
火～木曜日 AM10時～PM3時50分
金曜日 AM10時～PM2時50分

郵送等での送付を希望される場合はご連絡ください。

* 8月に「教育研究資料目録」が配付されています。また、研究所のHPでも図書を案内しております。ご活用ください。

編集後記

今年の2学期は、延期になっていた運動会や学習発表会など多くの行事がありました。また、各学校では各種研究会に向けて、お忙しい日々をお過ごしのことと思います。

今号では、3年次となりました研究テーマや今年度の重点について掲載しています。研究もまとめの年となりますので、2つの検証授業から、研究の成果と課題を明らかにし、所報、研究紀要を通して管内の先生方に還元していきたいと考えております。

9月に行った増毛中学校での検証授業、11月に行う留萌小学校での検証授業については、次号で詳しく

紹介いたします。

また、6月に行った「Zoom」を活用した研修講座の詳細を掲載しました。多くの先生方に参加していただきありがとうございました。資料等は、HPに掲載していますので、ご活用ください。

昨年度、好評をいただきましたインタビュー形式の記事の第2弾も掲載しました。取材させていただきました寺澤先生に改めて感謝申し上げます。

今後も管内の先生方に役立つ情報を提供していく広報の制作に努めます。ご意見ご感想をいただけますと幸いです。（広報部 荒木・笹原）